HUE RISE
北海道教育大学　へき地・小規模校教育研究センター（通称：へき研センター）
Hokkaido University of Education Research Institute for Remote and Small School Education（aka HUERISE）
令和４年１０月１３日発行　第１１４号

へきけんニュース

ホームページ　https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス　kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291　FAX 0154-44-3292

背景は北海道教育大学函館校

へき地・小規模校教育研究センターを広島大学・兵庫教育大学等の教員が視察

北海道教育大学へき地･小規模校教育研究センター

広島大学は教育開発国際協力研究センターを有し、SDGs推進の一環として、国際的に日本のへき地教育を東南アジアやアフリカにも広げていくプロジェクトを進めています。そのために、日本のへき地教育のセンターでもある北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター（以下、へき研センター）に、兵庫教育大学の教員を含む4名の先生方が視察に訪れ、関係者との意見交換会が催されました。

へき研センターで紹介した日本のへき地教育の水準の高さや「わたり・ずらし」等の日本独自の定式化された授業指導方法について特に熱心に聴いていただきました。へき研センターも、海外から見たへき地教育の到達点と課題等も検討しながら、当センターの研究蓄積を全国の国際支援関係者に広げていきたいと思います。

広島大学・兵庫教育大学の先生方よりご感想をいただきましたので、以下にご紹介します。ご寄稿いただいた皆様、誠にありがとうございました。

広島大学へき地訪問団の視察の様子

「ちょっとそこまで」の東南アジアと「遙か彼方」の北海道

広島大学大学院人間社会科学研究科国際教育開発プログラム
准教授　牧　貴愛

日本へき地教育研究校を視察しました。

新型コロナウイルス感染症の影響は続いていますが、幸運にも、この9月、洞爺湖で開催された第71回全道へき地複式教育大会胆振大会ファーストステージへの参加ならびに北海道教育大学釧路校のへき地・小規模校教育研究センター訪問の機会を得ることができました。また、今回、私個人が研究フィールドとしているタイの調査先から洞爺湖まで一晩で移動し、2年ぶりに「ちょっとそこまで」の東南アジアの近さを感じたのと対照的に、北海道の大会二日目の分科会の会場は私の感覚からは国内ながら「遙か彼方」にあり、北海道の広大さを体感しました。

私がフィールドとするタイではへき地・小規模校の教育やへき地教員養成が、昨今のSDGsの影響もあって注目されており、今回、そうした関心から北海道の地を訪れることにしました。

日本のへき地校は、一般校と同じ水準の授業ができるという驚き

我が国には「へき地教育振興法」という世界に類を見ない法律があると聞いたことはありましたが、実際にへき地の学校を訪問したり、授業を参観したりしたことはありませんでした。この度、研究授業と協議会に参加して、そこで先生方が議論される内容を見聞きして率直に感じたことは「一般校と変わらない授業実践が行われている」というものでした。もちろん「ずらし」「わたり」そして「リーダー学習」やICTを活用した遠隔合同授業などは特徴的だと思いますが、先生方の関心の中心は、それらのへき地に特有の事柄というより、発問の内容など授業そのものであり、子どもたちは「一般校と変わらない」教育を受けていると感じました。このことは、関係者にとっては、当たり前のことかもしれませんが、海外に目を向けてみると、並大抵のことではありません。へき研センターで伺ったへき地教育実習などのお話から、こうした授業実践が、教員養成に携わられる先生方、そして学校の先生方の不断の研鑽に支えられていることを改めて認識しました。

ふるさと教育資料が充実したへき研センター

それから、へき研センターには、へき地教育に関する貴重な数々の資料が所蔵されていますが、なかでも「ふるさと教育」の蓄積には目を見張るものがありました。これらの実践によって培われたふるさとへの強い思いは、子どもたちが進学・就職などで「遙か彼方」にあっても、成長した子どもたちの心の拠り所となり、それがゆくゆくはふるさとの活性化に繋がっていくだろうと、今回の訪問を通して感じました。他方で、へき地教育、小規模校の教育の有り様は、その地域の社会・経済と切り離せないということも改めて考える機会となりました。

末筆ながら、この度、訪問の機会を頂き、また、歓待頂きました第71回全道へき地複式教育大会胆振大会ファーストステージの関係各位、北海道教育大学釧路校のへき地・小規模校教育研究センターの玉井康之先生、川前あゆみ先生、小野豪大先生に深く感謝申し上げます。

北海道へき地・小規模校の調査を終えて

広島大学
助教　坂田　のぞみ

へき地・小規模校教育が世界の先進事例に！

2022年9月中旬に、北海道におけるへき地・小規模校の現地調査を行いました。大阪で義務教育時代を過ごし、人生の大半をいわゆる都会で過ごしてきた筆者にとって、「へき地」という概念そのものが、どこか遠い存在でした。また、自身の研究では、ときに1クラス数百人を超え児童数の多さが問題となる、アフリカの小学校を対象としており、「小規模校」が直面する現状や課題には全く無知の状態でした。

この度、9月14～15日に第71回全道へき地複式教育大会 胆振大会に参加、また17日に北海道教育大学釧路校のへき地・小規模教育研究センターを訪問しました。初めて複式学級を観察し、へき地校におけるICT導入やリーダー学習の実態について学ぶ機会をいただきました。全道大会で我々を暖かく迎えてくださった先生方、へき地・小規模教育研究センターの玉井先生、川前先生、小野先生に、厚く御礼申し上げます。

へき地・小規模校での個別最適な学び、協働型学習やICT教育実践が、世界各地で進行しつつある少子高齢化に伴う小規模校化や、アフリカその他の地域で類似の環境下にある学校の先進事例となることを願ってやみません。

第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会（ファーストステージ）への参加と北海道教育大学釧路校へき地・小規模校教育研究センターへの訪問を終えて

兵庫教育大学
講師　坂口　真康

リーダー学習とファシリテーターの役割

この度、第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会（ファーストステージ）への参加とともに、北海道教育大学釧路校へき地・小規模校教育研究センターへの訪問の機会をいただきました。玉井康之先生をはじめ、今回の参加・訪問にご尽力くださった全ての先生方にこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

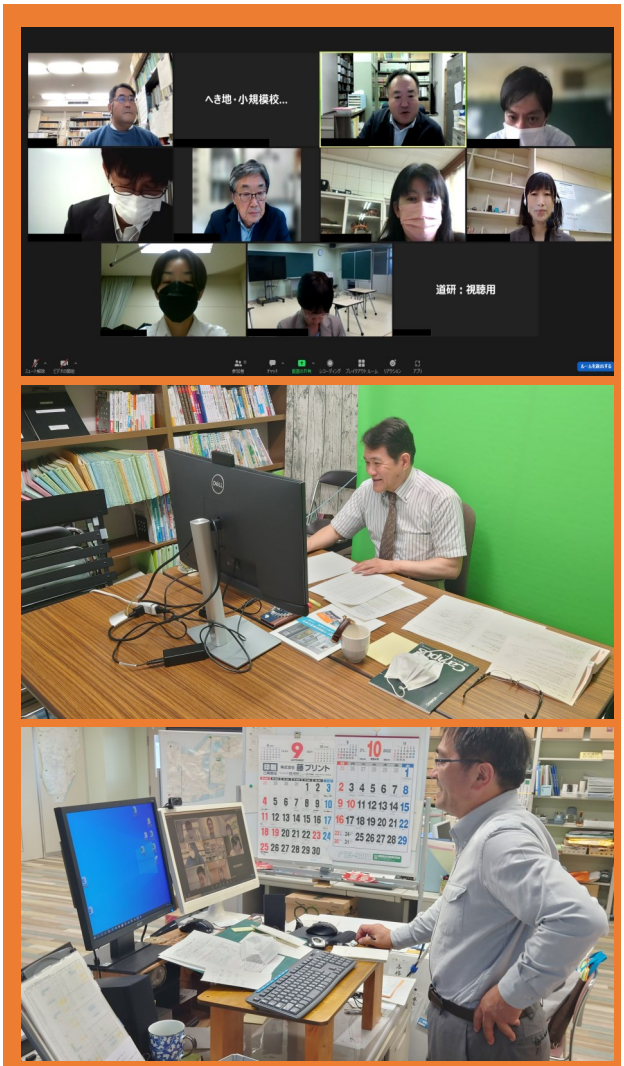
今回の参加・訪問を通じて、特に印象深く拝見・拝聴させていただいたのは、へき地複式教育・小規模校における「リーダー学習」の取り組みでした。昨今、「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」といった標語が日本の学校教育界を賑わしておりますが、すでに長年それらのいずれの要素も含みつつ営まれてきたのが「リーダー学習」であると理解いたしました。「学習者中心」の授業空間を創出し、「わたり」を効果的に用いながらファシリテーターとして立ち振る舞われる教育者の実践からは多くの示唆を得られると考えております。もはや、へき地複式教育・小規模校の教育研究は、それ以外の場所で一般的に考えられているような「特殊」な側面のみならず、これからの日本の学校教育の「基準」を示し得ると感じた次第です。今後とも、へき地複式教育・小規模校の教育研究でご一緒させていただけますと幸甚に存じます。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

北海道立教育研究所、北海道へき地・複式教育研究連盟と連携

へき地・小規模校教育充実研修【遠隔型研修Ⅱ】を開催しました

北海道教育大学へき地･小規模校教育研究センター

令和4年9月22日（木）に、「へき地・小規模校教育充実研修」【遠隔型研修Ⅱ】を開催しました。この研修は、北海道立教育研究所が主催する現職教員向けの研修の一貫として、本学との共催により開催したものであり、6月24日（金）に行った遠隔型研修Ⅰ終了後に各参加者が行った職場実践の内容を共有することを目的としています。講座には、小規模校及び複式学校に勤務する初任・中堅・ベテラン段階の教諭等また本校の卒業生等約30名が受講しました。



当日の遠隔型研修の様子

はじめに、6月の研修内容を活かした実践の交流として、受講者が4グループに分かれ、本学へき地・小規模校教育研究センター員がグループ演習講師となり、各参加者の実践事例に助言・指導を行いました。

その後、全体交流として、各グループでの交流内容の発表を行いました。

最後に、各グループで交流内容を踏まえた今後の目標設定と解決策の議論を行い、グループ演習講師は、参加者が立てた目標の達成に向けた助言を行い、受講者にとっては今後の職場実践への強い動機付けになったように思います。

グループ演習講師は、本学へき地・小規模校教育研究センターから札幌校・前田賢次准教授、加藤雅子へき地教育アドバイザー、旭川校・渥美伸彦准教授、伊端俊紀へき地アドバイザー、函館校・小松一保特任教授、釧路校・楜澤実准教授、荒川浩一へき地アドバイザーが担当しました。